

おわりに

この報告書に述べられているように、今年度も、14年目となった物理チャレンジ・オリンピック事業を順調に実施することができました。ご協力いただいた JPhO 内外の関係各位の皆様に厚く御礼申し上げます。

最近、テレビや新聞などで、フィギュアスケートや卓球、水泳、陸上などのスポーツだけでなく、将棋や囲碁でも小学生から高校生の活躍が報道されています。世界に通じる実力をつけた子供たちに拍手喝采を送り、新しい世代の台頭に大人たちもエネルギーをもらっていることでしょう。このような子供たちは、学校の外での専門のクラブやスクール、囲碁教室などで実力をつけて頭角を現してきたといえます。子供たちが多くの時間を過ごす家庭や学校と違った「第3の居場所」を作って、そこで自分の興味や得意技を思う存分追及する、という形が才能を伸ばすことにつながるようです。

このようなサードプレイス **Third Place** という概念は、アメリカの都市社会学者レイ・オルデンバーグ (Ray Oldenburg) の著書『**The Great Good Place**』(1989年)で提唱されたもので、自宅(ファーストプレイス)でも職場・学校(セカンドプレイス)でもない、自分にとって心地の良い時間を過ごせる第三の居場所を意味します。

サードプレイスの特徴は、自宅や職場・学校では築けない新しい人間関係があり、いやになればすぐにやめることもでき、出入りが自由という特徴を持ちます。同好の士が集まり、情報交換をしたり、いい意味で切磋琢磨したりする場、だれからも強制されることがない、しかし「甘い」わけではなく、レベルの高い厳しい練習なりトレーニングをする、そのような雰囲気や伸び伸びと自分の才能を伸ばせる場として、サードプレイスの果たす役割は大きいものがあります。学校の「部活」とも違った位置づけになります。

物理チャレンジ・オリンピック活動は、参加する生徒たちにとっても、作問や運営を担当する委員の先生方にとっても、このサードプレイスの役割を果たしていると考えられます。他校の物理好きの生徒たちと交流し、情報交換をしながら物理の勉強を進め、気がつくと大学で習う高度な物理学の領域まで入っていく、ということが頻繁にみられるようです。また、大学・高校など様々な所属の先生方が集まって、出題する問題を検討する作問委員会は、所属機関での入試問題の作問委員会と違って、先生方自身が物理を楽しみながらやっている様子が見えます。

このように、物理チャレンジ・オリンピックは、大人にも子供たちにもサードプレイスとして貴重な場を提供しています。その中から、クリエイティブな成果が出てきます。このような場に入るためには何の障害もありません。興味をもった大人も子供も、ただ「自分もチャレンジしたいです」と言っていただければ、いつでもウエルカムです。

(副理事長 長谷川修司)